

25:23 机をアカシヤ材で作らなければならない。長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一キュビト半。

25:24 これを純金でかぶせ、その回りに金の飾り縁を作り、

25:25 その回りに手幅のわくを作り、そのわくの回りに金の飾り縁を作る。

25:26 その机のために金の環を四個作り、その四隅の四本の足のところにその環を取りつける。

25:27 環はわくのわきにつけ、机をかつぐ棒を入れる所としなければならない。

25:28 棒をアカシヤ材で作し、これに金をかぶせ、それをもって机をかつぐ。

25:29 注ぎのささげ物を注ぐための皿やひしゃく、びんや水差しを作る。これらは純金で作らなければならない。

25:30 机の上には供えのパンを置き、絶えずわたしの前にあるようにする。

25:31 また、純金の燭台を作る。その燭台は槌で打って作らなければならない。それには、台座と支柱と、がくと節と花卉がなければならない。

25:32 六つの枝をそのわきから、すなわち燭台の三つの枝を一方のわきから、燭台の他の三つの枝を他のわきから出す。

25:33 一方の枝に、アーモンドの花の形をした節と花卉のある三つのがくを、また、他方の枝にも、アーモンドの花の形をした節と花卉のある三つのがくをつける。燭台から出る六つの枝をみな、そのようにする。

25:34 燭台の支柱には、アーモンドの花の形をした節と花卉のある四つのがくをつける。

25:35 それから出る一对の枝の下に一つの節、それから出る次の一对の枝の下に一つの節、それから出るその次の一对の枝の下に一つの節。このように六つの枝が燭台から出ていることになる。

25:36 それらの節と枝とは燭台と一体にし、その全体は一つの純金を打って作らなければならない。

25:37 それにともしび皿を七つ作る。ともしび皿を上げて、その前方を照らすようにする。

25:38 その心切りばさみも心取り皿も純金である。

25:39 純金一タラントで燭台とこれらのすべての用具を作らなければならない。

25:40 よく注意して、あなたが山で示される型どおりに作れ。

供えのパンと机、また燭台とその付属品についての神様からの指示です。パンはいのちのパンであるイエス様を表しますし、また燭台も世の光であるイエス様を表します。

アカシヤ材は普通に手に入るもので、これはイエス様の人性を表しています。また純金は特別高価なものですから、イエス様の神性を表します。また7つ枝がある燭台は、神の7つの霊、すなわち完全数による神の完全を表すものです。

イエス様は場所に限定されないお方ですが、このように人間側が周到に用意するなら、そこに臨在を表してくださるお方なのです。これらのものが進んでささげる者たちによって造られたことを思い、私たちも、進んで主の臨在を求めて用意しましょう。日常生活の中でもイエス様がご自身を表してくださるように、そのために備えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

